

どろんこ

2021年1月26日(火)
651号
船橋市職労福祉支部
発行責任者 土佐千代子



緊急事態宣言が出された中で、様々な思いで勤務されていると思います。本当にお疲れ様です。

今回は『月刊保育情報NO530の特別掲載、『コロナ集団感染を防ぐために、保育所等で何をすべきか』感染症の専門家である立中部病院感染症内科・地域ケア科の高山義浩医師の沖縄の保育園での集団感染の経験を踏まえて、Q & Aよりお役に立てそうな情報を抜粋してお伝えします。

沖縄県では、これまで4つの保育園での集団感染を認めています。(12月17日現在)。4施設での集団感染のすべてが、職員が発症により気づかれています。ただし、それが最初のケースと言えるかは不明です。

詳細に追跡したわけではあり

ませんが、職員から園児への感染リスクは高いものの、園児から職員へ、あるいは園児同士の感染リスクは高くはないようです。

詳細に現場の状況を聞き取ってみると、職員が昼食を共にしたなど、職員がマスクを外すイベントで広がった可能性がありました。

この他、気になったポイントとして、次亜塩素酸ナトリウム水溶液を透明のボトルで保管しているなど不適切な消毒液の取り扱いが多く見られました。また、空間除菌を信じて換気が不十分であった施設もありました。



Q 訪問した保育園の状況をみて、感染症の専門家としてどのようなことを感じられましたか？

A 園児たちを同じ向きで食事をさせようとしていた施設がありました。実のところ、同じ向きに座って食べているだけで、園児は横を向いて話しているの

で意味をなしません。食事の間以外にも、マスクを着けずに友だちと遊んでいるわけですから、食事の時間だけ対策することの意義はありません。

食後の歯磨きを飛沫感染予防と称して中止している施設もあるようですが、幼児自身にとっては、コロナより虫歯の方が脅威かもしれません。
午睡の時間に、頭と足の方向を互い違いにして園児を寝かせている施設もありました。それ以外の時間に友だちと密着して遊んでいるので、あまり意味のない対策だと思えます。窒息のリスクがあるため寝ている幼児にマスクを着けてはいけません。

Q 保育所等でもっとも心がけるべき感染対策は何ですか？

A 換気こそが、一番有効な空気中のウイルス対策です。できれば「定期的に換気」ではなく、「常に少しでも換気」を心がけてください。部屋の2方向を少しだけ開けて、

小さな風の流れを作るだけで結構です。このとき、食べ物の匂いはずっと残るようであれば、室内の換気が悪いと考えます。

総じて、症状のある園児を休ませることさえしていれば、それ以上の行動制限を園児に求める必要はないと思えます。その分、職員が手洗いなど感染管理を心掛け、換気などの環境整備を地道に行います。



Q 冬になり、各地で感染が広がっているようですが、何に気をつけるべきでしょうか。

A 職員が園児と一緒に食事を食べないことです。

園児の食事を手伝う職員は、事前に手指消毒を行い、手伝っている間は自分の首から上を触らないように心掛けます。

集団感染の規模を小さくするため、学年やクラスを超えたイベントは中止した方がよいと思われます。できるだけ、同じグループでのケアを心掛け、担当する職員も固定することをお勧めします。

Q 乳児の場合、食事を促すために職員がマスクを外して、「モグモグ、ゴックン」などと声を出して食べ方を伝えることなどはしてもいいのでしょうか？

A 地域で流行している地域では、家族以外の大人がマスクを外して接することはできるだけ避けてほしいと思います。

Q 保護者を園舎に入れず、送迎を玄関に限定している園も多いようです。

A 集団感染を予防するうえで重要なのは、症状のある職員や園児を休ませることです。保護者は室内に入らない方がよいですが、症状確認と手指衛生がなされていれば厳格にしなくてもよいです。

理想的には同じ親または指定された人が送迎に関わるべきです。できれば、祖父母など高齢者は、自らの感染予防のために送迎に関わるべきではありません。

Q 「濃厚接触者」とは基本的にとどのような定義なのでしょうか？

A 国立感染症研究所の定義では、「手で触れることのできる距離（目安として1メートル）で必要な感染予防策なしで、感染者と15分以上の接触があった者」この他に「感染者と同居や

長時間の接触があった者」この濃厚接触者とは、感染している可能性が高く、外出自粛や就労制限などが求められる者を指しています。

同居する家族が濃厚接触者とされた場合は、家族の症状をよく確認し、もし発熱などの症状が現れたら、その時点から仕事を休んでいただければと思います。

Q 体調不良の職員が出た時はどうしたらいいでしょうか？

A 発熱などの症状を認めたときは、休ませるだけでなく新型コロナウイルスの検査を受けさせてください。

できるだけ早く検査を受けることが、速やかな休園判断などの対応に繋がります。



今、 私たちにできること

新型コロナウイルス感染症の対策が少しずつ解ってきましたが、まだしばらくこの状況は続くことが予想されます。

専門家の意見を参考にしながら、「子どもにとって大切なことは何か」を考え、職員で話し合うことが大切だと思います。

各園のお別れ遠足、工夫して子どもも大人も楽しそうでした。

これまで行事や保育活動ができないと諦めていたことを、「コロナ禍の中で「何ができるのか」見直していかなくはならないのか」も考えられますね。

新しい発見や工夫を、職場を超えて共有し、子どもたちの豊かな育ちを支えていきましょう。

また、声を聞かせてください。

